

19/11/5 河村たかし名古屋市長定例記者会見(名古屋城部分)

(名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしアプリによる文字起こし)

記者: 市政一般について各社質問をよろしくお願いします。

記者: 昨日白川で火災がありましたけども。市としてなにか建物防火対策を点検を含めてどう考えていらっしゃるんですか。

市長: 文化財の防火、一遍きちっと点検すると言っていましたけど。

よっぽど名古屋でいうところの今度造る木造天守、それから本丸御殿もありますしね、櫓も今やっていますけどもう一遍きちっと点検するとは言っていました、けどあれなんでしょ、聞いたところだと防火対策というのはその主に人に対する防火であって、いまでいうスプリンクラーといついうぐらいなもので文化財である建物とかそういうのをどうやって守っていくかにいたっておらんと聞いたんだけどねえこれ。(駄目。おらんでいかんわ)と言いましたけど。

だからそういう面で相当やっぱり勉強もしてきつとしたものを作っていくかんというふうには思っております。建築基準法にもね復元というのがありますけど、さらに防災は別個にきちっと対策すると、てにをはちょっと違ったりしますけどということが書かれております、しっかりやりたいとは考えております。人命も無論大事ですけど、建物そのものへの防火対策いろんな技術を導入してやっていきたいと思えます。

記者: 市長関連で、本丸御殿なんか同じ木造建築物ですけど、今現時点での防火の設備つてのがどうなっているのか聞いてますか。。

市長: きちっとやっとりますわとは聞いてますけど、それ以上は申し訳ないけれどあんまりスペシャリティは僕はないですけど。

記者: あとは首里城なんかも、なんていうかなあいわゆるその重要な文化財が建物の中にあつたものが消失したっていう話もあって、本丸御殿も障壁画などの展示など、非常に価値の高いものを展示してますけど、そういうものが焼けてしまわないような対策がどうなっているかお聞きしたい。

市長: それはしっかりと特別なもの、凄いスペシャリティーなものをもっているという訳でもねえいだろう?(聞こえんで、前にどうぞ。ちょっと名乗ってなー。)

村木:名古屋城の村木と申します。本丸御殿の方には今も展示期間中なんですけれども重要文化財の障壁画を展示企画中ですけど。そういった機会もございますので、そういったことも想定いたしまして普段から防火の火災が起きた時の態勢については練習しております。具体的にどういことができるかということについては今回のことをうけてさらに検討は必要かなあとと思います。

記者:それでは具体的に見直したり、設備をたとえば充実させたりするということもありえるんですか？

村木:ちょっと今の時点で具体的な検討案はまだ検討しておりませんが、文化財を守っていくということでは何が必要かということは十分検討する必要があるというでございます。

市長:先進地域で新しい技術等いろいろありますわな。それについて最先鋭のやつでやったり頂戴。続いておるもんで首里城、白川郷で。

記者:これは事務の方でなんだか検討して、例えば何時頃になんか進めるとかありますか。

村木:これまでに具体的なところまでは検討に及んでおりませんが、今回のことを受けて、検討必要だという認識を今したところでございます。

市長:もっとも先進都市になるように、文化財を火災から守るような先進都市によ。

記者:本丸御殿にはスプリンクラーもついてない話ですけど、今の基準の中でそういう選択をされたんだと思うのですが、今後そういったものを付けられるかつけられないのかそういったことも検討されるのか。

村木:いろんな議論はしていかないといけないとは思っております。今の時点で具体的なところまでは全くでみえていないということでございます。

市長:プロでないのでもいい加減な事しかいえんのですがスプリンクラーは水が中心で主に人に対してなるので、CO2 とかなんかで

村木:文化財ですと水を掛けられないというのが基本でありますので

記者:かけちゃいけない？

村木:そうですね、普通博物館施設だとCO2とかハロンガスといったところで消火するですけども、本丸御殿もともとそういった文化財を展示するっていう現状ではございませんので、文化財に対する防火っていうのを、今までのところは考えておりませんでした。

記者:市長、今現在の天守に対してもそういった。

市長:コンクリート天守？

記者:コンクリート天守に対しては防火面ということが足りないところがあるということなんですか。

市長:足りないところがあるのではないかという。耐震性は測ってある。耐震性は測ってある。

記者:木造になった場合は木造の場合は今よりも耐性を強化するとか

市長:今の技術を超えたいもの考えるべきじゃないの今言った話で、スプリンクラーをたくさんつけるだけじゃなくてね。よっぽど大事に千年は大事にせにやいかん。人災は起こらんようにせんといけないね。なんと戦争で燃えたんですから。まあ家康さんも想像できんかったと思いますよ。戦争というやつは、空襲ってやつは。

記者:すいません、先ほどの縄張り意見もありましたけれども。

それとも石垣部会との合意っていう話ですけども。

何時、市と何を話して合意したのかっていうのをちょっと教えていただきたいのですが。

市長:そういえば端的に言えば隠しとつてもいかんもんですからこれ、昨日懇談会がありましたですね、文化庁から言われておる、具体的に言われましたけど、一つは仲良くやってちょうと平たいことというまとまってやって頂戴が一つ。もう一つは天守木造復元も一緒にして是非一緒の格好で申請してくれということでございます。それも一緒に考えていこうと言う事で。僕からは名古屋市民の熱い期待だこれ、お願いしますわということで。

そういうことで、仲良くやってこうという言い方ではないけれど、ちょっと相談しながらやっていきましょうというような話になった。これからは連絡を密にしてやっていきましょう。木造復元も入れてですよ。天守木造復元も入れてやっていこうとなった。なるべく丁寧に早くできるようにとということで。そうだなと、皆さんそうだ、そうだ。Yes, we do. そうなったということで。

記者:それで、昨日の懇談会は市長も出席されたのですか。

市長: わしも出ておりました。

記者: 何処ですか？

市長: 場所は名古屋城です。

記者: 名古屋城内の事務所とかで？

市長: 城内の事務所です。ちょうど今あれをやっておまして。

この間文化庁から許可がきましたお濠の下の発掘調査、5箇所ですけれど あれの現地調査がありましたので、ちょうどお集まりになったということもありました。

記者: 結局連絡、合意というのは、連絡を密にして何をやっていこうと言われたのですか

市長: いろいろ相談をしながら、文化庁の指示通りに木造復元と一体として。

名古屋城の問題を、問題ではないですが、名古屋城木造が早く復元できるように丁寧になるべく早うできるようなるべくなるほどしっかりやりましょ協力してということです。

記者: 石垣部会は先生方皆さんいらっしゃったんですか。

市長: 全員みえました。

記者: 市長との懇談会？

市長: 懇談会、というより懇談ですね。

記者: 懇談は市長側からもちかけたものですか。

市長: どちらともいえます。どちらともいえるという感じです。

そりゃこちらからは文化庁に言われてますので、石垣部会の皆さんとまとまってやって頂戴よと言われてますのでこちら側から、どっち側からと言えれば厳密に言えば名古屋市側から。

記者: 合意っていうのは向こうの部会の人たちは何て具体的にいつみえたのか。

市長:あまり細かいことを気にしとつたみたいで、僕は途中からはいったので。いろんなことを言われてるじゃないですか。石垣の、とりあえず下の五つ掘ってやっとするのこの前ちゃんと思っと思ってあと、ちゃんと石垣を大事にしていくと。

記者:相談してやっていきましようって言ったときに、つまり合意ってということですから、何というか分かりませんが、そうですねとか分かりましたやっていきましよう合意の言葉があったということですか。

市長:言葉がありました。ちゃんとして協力して、進めていきましようということですよ。

記者:あの石垣部会は、逆に言うとなかなかその意思疎通がうまくいかない場面があったということだと思うんですけども。名古屋市側からですね、何らかこれまでの進め方に関してこういう点で不備があったというような話はされたんですか。

市長:それは一応、一応じゃないですけど、なかなかあなかなどういったかなあ、意思疎通がうまくいかないことがありまして申し訳なかったと思っておりますと言いました。

記者:どういう、何が申し訳なかった？

市長:中々意思疎通がうまくいかんことあったようでございますのでそれは申し訳ないということですね。

記者:今回のそれについても納得してもらえたと。受け入れてもらった？

市長:納得していただいと思えますけど。

記者:あと一つは、これまでのやり方で、名古屋市側なのか両方なのか分かりませんがその、こうこういうことでうまくいかないことがあって、あったと。これからどうしようみたいな話はあるんですか。

市長:あんまり振り返ってもなんですけど、ちょっと言葉のやりとりみたいなこともありましたし。なんか資料を出してくれん時もあったと名古屋市がね。なんですかそれという話だったんですけど、そういうことやなんやでほんとに惜しかったわねという話もありました。もっと早うに意思疎通ができるようにやればしたよ。僕はもっと早う4人の先生方と一人ずつどういうふうにしたらいんですかと聞きたかってアプローチとろうと思たんですけど個別には接触してくれるなといわれてできせんだったんですわて。

なると思うんだよできせんかったんでございます。申しあげました。

過去のこと言っとたってしょうがないでしょう。

文化庁から明確にいわれておりますので、指示に従ってやっていこうとということですね。

なんぞあったらわしが全員の皆さんに携帯で話しますんで、ちょっと前ですけど。

わしの携帯に直接かけてちょと言ってきましたけれど、森進一の盛り場ブルースができるんでびっくりせんように。そんなことですね。

それと先ほど服部さんと話しておったですが是非お城の天守石垣というのはそれだけにせず、それだけにせず、近世武家文化のメッカと世界のメッカ、土のメッカとなるような名古屋の街づくり中で、天守石垣がかけがえのない引き金というか第一歩として

そんな認識は共通して、そうだねと、こっちもそうしたいと思っとる。

徳川美術館の徳川さんにも言ってるけど、

徳川美術館が一つの象徴だけれども、名古屋文化になるのかちょっと名前まだ決めておりませんけどこういうものも文物を集めて名古屋は文化財を散逸せんようにすることも重要な仕事だわね行政の。やっていきましょ。そうだね。前に進めていきましょ、協力して進めていきましょ。そうだねとなったということです。

記者:いわゆる石垣部会で例えば石垣の保全についての調査とかいろいろ、要するにもう少し丁寧にするようにとおっしゃってたと思うんですけど。

そういうことも名古屋市では今5年、あと5年以内でしないとなんか訴訟、訴訟上問題があるとかいろいろな話がでている中で何かやり方進め方についても何か合意とかできたのですか

市長:丁寧にするかといかんぞということであって、それで合意すればそれだけのことでないですか、それでいいんじゃないですか。そういうことです。

どこまで調査するかという問題はありますが、現実的に。

そりゃ今石垣お濠の下、文化庁と昨日下まで降りて真下から見ましたけど初めてですけど中々すごいですね。慶長期、宝暦 それから最近の3つありますんでそれぞれが石垣を構成してますけどこれ。石垣が何年間動いておらんと石が、というのもやっていますし、それがやっぱり現実的には大きいわね。非常に神秘的ですね、ある意味石垣って。

下へ行くとよくわかります。神秘的だわなあっていってどれだけ強度があるんか、非常に神秘的ですね、現実できうればなるべくそのままにしておく。というのが基本だということはいわれております。基本だと。ただ孕みのとこなどどうするだ

また、これから議論があることであることじゃないですか。

これから、この状況ですべてがこれで終わりというものではないね。